

(参考2)

## ノンステップバスの導入が少ない要因等に関するアンケート調査について

平成14年11月

国土交通省自動車交通局

### 1. 調査の目的

ノンステップバスは、年々導入台数が増加しているものの、まだ、十分に普及していないのが現状である。そこで、本調査はノンステップバスの導入を進めるにあたり、これからの課題、有効方策等について調査した。

### 2. 調査の期間

平成14年5月から6月の間

### 3. 調査対象のバス事業者

全国の路線バス事業者のうち、ノンステップバスの導入率が支局単位で3%未満の事業者(354社)。

- (注)・ 全国の路線バス事業者 451社
- ・ ノンステップバスの導入率3%以上の事業者 97社(21.5%)
  - ・ ノンステップバスの導入率3%未満の事業者 57社(12.6%)
  - ・ ノンステップバスを導入していない事業者 297社(65.9%)
- (平成14年3月31日現在)

### 4. 調査の内容及び有効回答率

本調査は、全国の路線バス事業者を対象に、

ノンステップバスの導入が少ない要因について

(有効回答率・91.0%、322 / 354社)

ノンステップバス導入の有効方策について

(有効回答率・68.4%、242 / 354社)

ノンステップバスを一部導入の場合、導入した要因等について

(有効回答率・75.4%、43 / 57社)

の3点について、記述方式により調査した。

ノンステップバスの導入が少ない要因について(別紙4)

#### イ. 車両価格要因

ノンステップバスの導入が少ない要因に関する回答としては、「車両購入費が高い」(158社、49.1%)とするものが最も多かった。それとともに、「購入資金不足」(55社、17.1%)、「地方公共団体の協調補助が必要」(43社、13.4%)、「補助制度の充実が必要」(30

社、9.3%)となっている。

#### ロ．道路・地形状況要因

「道路整備が必要」(81社、25.2%)とする回答は、バス事業者だけでは解決できない要因であり、坂道の多い道路・凸凹がある道路・踏切付近の道路など地形上運行の困難な道路があることが要因となっている。「縁石が高く床面に接触する」(40社、12.4%)とする回答も停留所付近の道路などに運行の難しさがあることを提起している。

また、「山間部における走行困難」(67社、20.8%)、「狭隘区間が多く運行が困難」(50社、15.5%)とする回答もノンステップバスの導入が少ない要因となっている。

#### ハ．車両構造要因

車両の構造上の要因として、「タイヤハウスの座席が高く危険」(60社、18.6%)、「車両床面の段差が大きく危険」(24社、7.5%)「座席が少ない」(24社、7.5%)などがあげられている。

#### ニ．降雪要因

「冬期間の雪の問題」(52社、16.1%)、「降雪時の運行不安」(39社、12.1%)は北海道・東北・新潟などの事業者の回答が多く、積雪により車体下部が接触したり、降雪量によってはノンステップバスの運行が困難となっている。

### ノンステップバス導入の有効方策について(別紙5)

今後ノンステップバスの導入を進めるためには、半数以上の事業者が「車両購入補助・協調補助制度の拡充」(145社、59.9%)が必要であると回答している。「道路環境の整備・改修・拡張」(72社、29.8%)「車両価格を低廉化する」(60社、24.8%)、「車両構造の改良が必要」(46社、19.0%)などは、上記のノンステップバスの導入が少ない要因と類似した回答となっている。

### ノンステップバスを一部導入の場合、導入した要因等について(別紙6)

高齢化社会への対応やバリアフリー法の施行などの観点から、ノンステップバスは今後も増加するものと思われる。回答は、「乗車・降車が容易である」(35社、81.4%)が多く、「高齢者・通院者・身障者の要望」(13社、30.2%)、「交通バリアフリー法施行による」(10社、23.3%)、「車いすのまま乗降できる」(9社、20.9%)などとなっている。

#### 5．調査結果を踏まえた今後の対応

国では、アンケート調査をふまえて今後も高齢者、身体障害者等の移動円滑化がより容易にかつ安全に行われるよう、引き続きノンステップバス導入のための支援措置を行うとともに、地方自治体に対して、地方補助制度の充実を図るよう働きかけていくこととしている。

また、車両構造に関しては、平成13年度から「ノンステップバス標準仕様策定検討会」

において、国、バス事業者及びメーカーが相互に協力しつつ、車両の安全性・利便性の観点からの検証を行いながら必要な改良を進めているところであり、バスメーカーなどによる車両構造の改良に期待しているところである。

以上。